

渡邊 真弓 わたなべ まゆみ



写真家／“allo?” 渡邊真弓写真事務所代表

法学研究科修士課程を修了し、大学職員として就職。初ボーナスで買ったポラロイドカメラ 690SLR で写真と本格的に出会う。その後数回の個展、共著『Cute Photographer～おしゃれな写真が撮れる本～』（2008年）の執筆、写真教室など活動が広がる。

在職中に京都造形芸術大学写真コースに入学、卒業し、独立。現在に至る。

「写真と一緒にくらしを楽しむ」「写真と一緒に新しい出逢いや発見を」をキーワードに、写真教室企画、執筆など幅広く活躍。写真教室の受講者は2500名を超え、3000名を集客するフォトフェス CuiCui を2016年から開催するなど、北海道の写真文化に寄与している。

日常をモチーフに「時の有限性」「薄れゆく記憶」について考察する作品を制作。主な展示として、2011年個展「air」（アルテピアッツア美唄）、2016年7月個展「eternal now」（富士フォトサロン札幌）、2017年9月富士フィルム X-E3 発売イベント FUJIKINA で作品展示。2016年京都造形芸術大学写真コース研究室賞受賞。

京都芸術大学通信教育部美術科写真コース非常勤講師、天使大学看護栄養学部栄養学科非常勤講師、フォトフェス CuiCui 事務局代表、北海道カメラ女子の会代表を務める。

●Web : <http://www.allo-japon.com/> Instagram : https://www.instagram.com/allo_mayumi/

北海道
カメラ
女子の会

北海道カメラ女子の会とは：

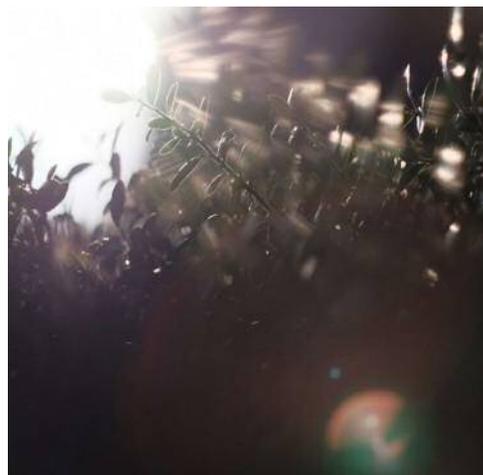
SNS とリアルをミックスし、北海道のカメラ・写真が好きな女性を緩やかにつなげるコミュニティ。2021年8月現在会員630名を突破。2019年からえりも岬とんがりロード観光協議会と地域振興・観光推進プロジェクトを推進中。写真を通じた地方創生事業に取り組んでいる。

展示する作品「そこに ある」について

日常の中に現れる美しいときをカメラという装置で切り取り、写真という形で眼前に差し出す。そこに表出するのは、過ぎ去った時であり、私の薄れゆく記憶でもあります。人々は日々たくさんのものを見ていますが、記憶に留まるものはほんの一部です。

「そこに ある」は2017年から2018年にかけて、東京・札幌と巡回しました。ご縁をいただき、様似町で展示できることを大変嬉しく思っています。

足をお運び頂いた方の過ぎ行く時や薄れゆく記憶について思い巡らせる機会となれば幸いです。



「そこに ある」コンセプト

わたしたちは始まったときからすでに終わりゆく運命にある。時は絶えず進み、今はあっという間に過去になる。「そこにある」ただ、それだけで愛おしい光景を、カメラで切り撮り、集めていく。

時の経過とともに温度を失っていく記憶を呼び戻すために。始まりそして終わり逝くものを永遠にするために。